



# 南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

FAX 048(836)1589 さわやか相談室直通

TEL 048(863)0753

TEL 048(837)5909

## 『 心の色 』

校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一



私が中学3年生の冬の話である。当時、熱狂して観ていたのが『ザ・ベストテン』という音楽番組だった。この番組では、毎年12月の最終週の放送で「年間ランキング50」が発表されることになっていた。記録を取るのが好きだった私は、この企画が楽しみで、テレビの前に録音機を置き(まだ家にビデオがなかった…)、放送後に何度も聴き直し、ランキングを書き起こしては喜んでいた。

次の日、授業で自習があり、しばらくは課題をやっていたのだが、途中ですっかり飽きてしまった。私は一番廊下側の席に座っていて、自分の真横にある窓の「曇りガラス」がふと目に入った。表面がざらざらしているの、鉛筆で落書きがしやすいのだ。私は学校に持参していた例のランキングを書いた紙を取り出した。そして、クラスメイトもこのランキングを気にしているようなことを言っていたので、情報発信をしようと思いつき、この曇りガラスに上位の曲から順番に書き始めた。すると、この作業がとても面白く、結局50曲すべてをぎっしりと書いてしまった。

もうおわかりだと思うが、この行為は実によくない。案の定、落書きはその日のうちに先生方に発見され、座席表を基にあつという間に犯人が特定された。そして、翌朝の教室で、生徒指導バリバリの怖い担任の先生から、前に出てくるように指示されて、「受験期にこんなことをやって何を考えているんだっ!」と、こっぴどく叱られた。

決して悪気はなかった。と言うか何も考えていなかった。ちょっぴり友達の役に立ったのではと馬鹿な勘違いをしていたかもしれない。何はともあれ、私の中学3年生当時の判断力はこんなものだったのだ。たいした人間じゃないのである。ただ、担任からものすごい勢いで叱られたので、同情してくれた友達もいたのだが、自分の愚かな行為のために、担任が他の生徒から反感を買うのは筋違いだとは思った。

3月になって進路も無事決まり、卒業式直前に「3年生を送る会」が行われた。体育館の舞台では学年の先生方がサプライズで歌を披露してくれて、我々生徒たちは大喜びで盛り上がっていた。近くの女子たちから「ねえ、何か叫んでよっ!」とけし掛けられたので、私は感謝の気持ちを込めて「まっつあーん!」と、担任の仇名を声高らかに叫んだ。会場から「キャーッ!」という悲鳴のような歓声上がり、みんなの感情が弾け飛んだのを覚えている。そして、大好きなクラスメイトや先生方との別れが近づいていることを実感した瞬間でもあった。この時の歌が中村雅俊の『心の色』、この年の年間ランキング4位になった曲であり、中学卒業の頃の思い出の曲になった。

まっつあん、あの時は落書きをしておめんなさい。今、一生懸命生きています。私の学校の生徒たちも、みんな一生懸命で、素直ないい子ばかりなんですよ!